



1970年の結成以来、ニューヨークを拠点に常にアメリカ現代音楽シーンの要として走り続けてきたダ・カーポ室内楽団。アメリカを代表する現代音楽作曲家たちとの緊密なコラボレーションと、欧州およびアジアの現代音楽をアメリカの聴衆に紹介する活動を、斬新なプログラムと高度な演奏を通じて精力的に行っている。

1973年に、米国クラシック音楽界で最も権威ある賞のひとつノーベルグ賞を、現代音楽アンサンブルとしては初めて受賞。また ASCAP(米国作曲家著作家出版者協会)と CMA(米国室内楽協会)が共同で授与するアドベンチャラス・プログラミング賞の栄えある第1回受賞者でもある。

これまでの委嘱作品は約80曲、委嘱作曲家には、ミルトン・バベット、ジョン・ハービソン、ジョージ・パール、シュラミット・ラン、フィリップ・グラス、ジョアン・タワー(ダ・カーポ創立時のピアニスト)、チャールズ・ウーリネン、ジョン・コリグリアーノ、デビッド・ラング、ポール・ランスキー等、幅広いスタイルに渡るアメリカ現代音楽界の重鎮たちが名を連ねる他、若手作曲家の発掘も熱心に行ってきた。1990年から1993年にかけては、メロン財団のスポンサーシップにより、ゲスト作曲家委嘱プログラムも実施している。

柔軟な楽器構成からなる膨大なレパートリーには、電子音楽、シアターの作品も含まれ、2000年にニューヨークのミラー・シアターで舞台化上演したイギリス人作曲家サー・ピーター・マックスウェル＝デイヴィスによる「ノートルダムの奇術師」は大好評を博した。欧州およびアジアの現代音楽の演奏も盛んに行っており、シェーンベルグ、クセナキス、ベリオ、シュトックハウゼン、武満など現代音楽の世界的大家だけでなく、藤倉大、ペンカ・クーネバ(ブルガリア)といった米国内ではまだ知名度の低い新進の若手作曲家たちの作品を、意欲的なプログラムに積極的に取り入れてきている。2003年にはモスクワとミンスク(ベラルーシ)の音楽祭に招聘され、アメリカ現代音楽のロシア初演を多数行うとともに、旧ソヴィエト連邦圏の若手作曲家・演奏家たちとの刺激的な交流を行った。2004年末にはモスクワ及びサンクト・ペテルブルグの作曲家協会より再びロシアへの招待を受け、2都市ツアーを実施する予定である。

これまでのレコーディングは10を超え、CRI、ブリッジ・レコード、ニュー・ワールド、イノヴァ・レコードといったレーベルからCDがリリースされている。その他詳細情報(英語)は www.da-capo.org まで。

メンバー: パトリシア・スペンサー (Fl)、アンドレ・エメリアノフ (Vc)、デビッド・ボウリン (Vn)、メイガン・ストゥープス (Cl)、ブレア・マクミラン (Pf)

(2004年11月更新)